

国による装飾古墳の模写事業について

文化財保護委員会（文化庁文化財部の前身）は、装飾古墳の保存事業の一環として、昭和30年より、壁画（装飾）の現状を忠実に模写し、これを後世に伝えて不測の事態にも備え、また、観覧に不便な装飾古墳の研究観賞にも資することを目的として、壁画の模写事業を実施した。以下に本事業の概要を記す。

事業主体	文化財保護委員会（昭和43年まで） 文化庁（昭和43年から）
模写制作者	日下八光氏 （東京芸術大学名誉教授、明治32年～平成8年）
時期・対象	昭和30年～（平成8年） 昭和30年に福岡県王塚古墳の模写を開始し、その後、九州（福岡・熊本・佐賀・大分等）の装飾古墳の模写を実施。昭和60年からは東日本（宮城・福島）の模写を実施。
模写の所有 展示等	国立歴史民俗博物館 近年は九州国立博物館等において展示等の活用が図られている。